彦根市総合教育会議　会議録要旨

令和２年度第２回彦根市総合教育会議	
日　時	令和２年11月27日（金）　午後２時00分～午後３時45分
場　所	平和堂アル・プラザ彦根６階　大学サテライトプラザ彦根
出　席	彦根市長　大久保　貴 教育長　西嶋　良年 教育長職務代理者　本田　啓子 委　員　小松　照明 委　員　永濵　隆 委　員　西川　孝子
欠　席	なし
議事次第 １　議題 (1) 令和３年度予算について ①コロナ禍で見えてきたこと ②これから求められる教育施策 ③実現のための予算編成の要点	

○企画課長

ただいまから令和２年度第２回彦根市総合教育会議を開催いたします。

本日の意見交換につきましては、まず、教育委員会からご説明差し上げたのち、次の３つの視点から、皆様に意見交換をお願いしたいと思います。

１点目は、「コロナ禍で見えてきたこと」について、２点目は、「これから求められる教育施策」について、３点目は、「実現のための予算編成の要点」についてでございます。

それぞれにつきまして、順にご意見を伺いながら、整理して参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは教育委員会から説明をお願いいたします。

○学校教育課長

本日の議題となっております令和３年度予算につきましては、現在のコロナ禍の中、今後のウィズコロナ、アフターコロナを踏まえまして、施策について考える必要があると考えております。そこで、コロナ禍において、今年度、学校に関わって取り組んでおりますことについて、説明させていただきます。

まず、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和２年３月２日から臨時休業といたしました。途中春季休業をはさみ、４月８日と９日は在校生が登校しましたが、翌10日から５月30日まで臨時休業といたしました。

臨時休業の間、放課後児童クラブや学校で児童などの受け入れ・預かりを行いました。また、学校再開に向けて、手指消毒液やマスク、非接触式の体温計などを各校に配布するとともに、ホームページ等を活用し子どもたちの心のケアに関する啓発を行いました。さらには、新型コロナウイルス感染症に関する人権への配慮がなされるよう、発達段階に合わせた資料を作成しまして、各学校を通じて啓発を行いました。

また、子どもたち１人に１台の児童生徒用端末を配布するＧＩＧＡスクール事業に関わりまして、教育委員会事務局内にプロジェクトチームを置き、事業を推進しており、その中で、新たな臨時休業時に対応できるよう準備を進めているところです。

さらに、感染症対策学習保障等に係る支援事業としまして、各校が必要とする物品などを購入できるよう、予算の配分を行いました。具体的には、扇風機やサーキュレーター、給食用配膳台など三密を回避するためのものや、保健衛生用品などの整備に活用されるなど、コロナ禍の中、このような取り組みを進めているところです。

来年度もコロナとつき合いながら、本市の教育大綱基本方針である「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち、次代を担う心豊かでたくましい人を育みます」に向けまして、五つの基本目標を実現できますよう、予算編成に取り組んでいるところです。

新型コロナをはじめとする感染症など、先を見通しにくいウィズコロナ、アフターコロナを念頭に、子どもたちの学びを確保できますよう、教育行政を進めていきたいと考えております。以上です。

○企画課長

ありがとうございました。

ただいま学校教育課からコロナウイルスにかかります対応状況、そして、ＧＩＧＡスクール等ＩＣＴ対応も含めた、今後の対応の説明をしていただきまして、教育大綱基本方針に則った予算編成を行うと説明をいただいたところでございます。

それでは、まず冒頭で３点の視点を申し上げましたが、まず１点目の視点でございます「コロナ禍で見えてきたこと」につきまして、順次ご意見をお伺いしたいと思います。

なお、各委員からの発言を整理するため、正面のホワイトボードを使い、学校教育課の伊藤副主幹に板書していただきますので、よろしくお願いいたします。

それではご発言のある方、お願いいたします。

○本田職務代理者

休業に入って、コロナで先が見えない中で、自治体も大変だったと思います。

休業に入ってから、保護者の声を拾いますと、子どもが学校行かないとすごく大変とお聞

きしました。その理由は、特に共働きのご家庭では、食事や勉強のサポートが大変であったとか困ったということでした。保護者の負担が大きければ大きいほど、そうでなくても、ストレスがあるのに、子どもも同じように過ごしていくというようなことが近所でも見受けられます。

親御さんの話を聞くと、家庭だけでは子どもの学びや成長には限界があるとおっしゃいます。確かに全国で進められているようなオンラインとかは、災害時にはすごく効果的ですので積極的に進められると思いますが、それが全てではなく、家庭と学校が一緒になってとか、地域が一緒になってとか、そういうことで、子どもたちが成長していくんだなってことを実感されているとお聞きしています。

学校の役割は、勉強だけでなく人として生きる上での生活面とか、そういうところの影響が大きいのではないかと思いました。家で過ごす時間が多くなって、サポートが大変だったのですが、子どもと親の関りは深くなったり、或いは、学校の役割を思い返したりとか、そういうこともあったのではないかと思います。

いうまでもないことなんですが、子どもは、学校で刺激をもらったり、一緒に勉強したりできるようになったりして成長していきますので、十分なコミュニケーションはできないのではないかとも思いました。

今年度から小学校の学習指導要領が全面実施となり、本当なら、もっと子どもたちの対話やアクティブラーニングが前面に掲げられて、授業の中でも、子ども同士のグループ学習とか、対話学習とかそういったことを重視しましょうっていっていた矢先に臨時休業となりましたので、思うようにできない状況だったと思います。ＩＣＴの活用をこれからどんどん進めていくにしても、その両面を大事にしていくべきだと思いますが、その時の、学校の役割や地域の働きとかといった人と人との関わりを見直してより良くしていくようなことも考えていかなければならないのではないかなと思いました。

〇小松委員

コロナ禍で見えてきたことにつきましては、そもそもコロナによって想像もできないような状態となりました。いくつか気になったことはありますが、一番気になったのは、授業をしたくてもできないという状態です。3月から5月末ぐらいまで授業ができなかったのですが、彦根市の場合も、家庭学習用にプリントを配って計画書を作って自習計画とか、何とか学習をつなごうというような努力をしていただきましたが、ＩＣＴという道具を従来から使っていた私立などは積極的にそういった対策を打っているということを聞きました。公立と私立の差といいますか、家庭環境にもよって、そういったツールがうまく使えたり使えなかったりといったようなことが発生しているのではないかと思っています。

従来は、授業は対面でするということが当たり前でしたが、今のような状態になった時の授業の継続をどうするかということが課題としてあり、教育の公平性ということも含めて段取りしていかなければならないと思います。

今回は、想像もできないことが発生しましたが、それにより家庭環境や勉強の方法、或いはＩＣＴの準備などいろんな対応の仕方が変わってくるのかなと感じました。

〇永濵委員

コロナ禍で見えてきたことについては、学校・保護者・ＩＣＴ・教育格差、それぞれ全国的に言われていることであり、私も同様に思います。ただ、市のレベルで意見を言わせていただくとすれば、今まで、教育だけでなく、経済的なものに関しても、国県が先導してやっていくということが主であり、根本であるとは思います。

１市民として生活してる中で、疑問点・疑問符が付くことが多々あります。国県の言われることもごもっともですが、それ以前に、各地域差が大きいと思います。日本全体として、平均的に考えれば、どちらかと言えば滋賀県彦根市は都会ではありませんので、彦根市にあった対策を取っていくべきであると思います。

教育については、地域差はなく、全国、全ての子どもたちが平等に教育を受けてもらう権利があります。そこに関しては日本全国共通的なものだと思います。国県の指導を待たずに、地域の特性を踏まえ、地域に合った動きを早くするべきと、今回のコロナ禍により思いました。

補助金とかお金がないと何もできませんが、ただ、それを待つことなく、市民への啓発が必要だと思います。コロナ禍でも約１年近く経っていますが、最近よく言われる緩みというものが一部ではあると思います。教育現場では、常に先生方、緊張を持って対応してくださっていると思いますが、子どもたちの通学を見ていますと、マスクをしていなかったり、マスクをせず大声で話したりしており、逆に父兄の中で緩みを感じるところがあります。皆で気持ちを締め直すということが必要だと思います。

市や学校が一生懸命、子どもや市民のため対応していただいてるのは十分承知していますが、自分も含めて市民も一緒に頑張りましょうという形で、気持ちを締めなおす必要があるかと思いました。

コロナ禍と言われる以前から問題視されたと思うのですが、教職員の多忙化に関して、数十年前であればやっていなかったようなことも対応しなければならないような状況に加え、コロナ禍がさらに加わって、教職員としてやらなくても良い事などが増えています。それに伴い、教職員の多忙化が更に顕著化しています。その点については、行政からなるべく教職員がするべき本来の仕事が円滑に実施できるように最大限のサポートをしてもらいたいと思います。

〇西川委員

いろんな規制がある中、やっぱり子どもたちは、集まって話して遊んで勉強することで成長していくものだと思います。子どもたちを守りながら、安全・安心な学びの場を確保していくことが重要です。

子どもたちを受け入れるところは、感染症対策に万全を期して、毎日の消毒作業やマスク手洗いうがいの指導など、先生たちや関係職員の方の努力によって感染が広がらずに過ごせていると思います。子どもたちが安心して成長していけるところが学校だと思いますし、学校の役割だと思います。

永濵委員が言われたことですけれども、少しでも仕事の負担が軽くなるように、サポーターの配置などは必要になるのではないかと思います。

○教育長

昨年度の３月に学校の臨時休業をしましたが、年度が変わったら、スタートして遅れを取り戻すことを考えていました。

しかし、４月、５月も大きな影響があって、臨時休業をせざるをえないという状況になって、子どもたちは３ヶ月学校から離れることになったわけです。その時に、色々と行政の対応として、学びの保障だけではなく、例えば共働きの家庭の子どもたちの居場所をどう作るのか、また、「食」にも困っておられるご家庭もありますので、その子どもたちの「食」の保障をどうするのかといったことがありました。また、家庭にいますと報道等でコロナのことが流れますので、非常に不安な状況になっているということがありましたので、子どもの心のケアをどうするのかといったことも課題になってきました。

学校は、学びの場であり成長の場であるわけですが、今回のコロナで３ヶ月臨時休業したことによって、学びだけではなくて、大切な居場所であるということを実感することになりました。

子どもたちの健やかな成長には、その安心・安全な環境づくりということで、居場所をしっかり確保していくことが大事です。学校は福祉的な視点で見たときに、非常に大切な役割を担っていることを改めて感じた休業期間となりました。

○市長

学校の役割は大きなものであると改めて感じました。

とにかく何が何でも開けておかないといけないということだと思います。

役所もそうですが、継続させることが重要であり、感染者が仮に出たとしても、最小限の影響に止めていくことを講じていかなければならないと考えています。

現下の状況を見ましても、良くなる要因はなく、これからもずっと続いていきます。国内の感染者が 14 万人ぐらいであり、感染してない人がはるかに多いわけですから、緊急事態宣言が解除されましたが、ウィズコロナということはずっと新型コロナが残っていくということです。

そのため、現場の皆さんとしっかり共有させてもらわないといけませんが、ＩＣＴというのはひとつのツールではあり、皆さんがおっしゃっていただいたご意見を集約しますと、やはり学校という場の重要性はありますしそこは死守しなければならないと思っています。

息長く付き合っていかなければならない感染症であると思いますので、来年度に向けて、やれることを１つずつ積み上げていくしかないとも思います。

二度と全校休むというようなことが無いように、対応していかなければならないと思っておりますので、ぜひ皆様のお知恵を拝借しながら準備していきたいと思います。

○本田職務代理者

文部科学大臣が、緊急事態宣言が出ても全校一斉に休業することは考えていないとの内容がネットニュースに上がっていました。

先ほどおっしゃったように、それぞれ地域の実情とかもありますし、子どもにとって、学校の存在は大きいということがこの何か月かの休業で、皆さん身に染みているのだと思います。その時その時の状況に応じて、細かく休業するにしても、インフルエンザの時とかと同じように考えても良いと思います。

もちろんマスクが効果的であることが医療関係の人からも話がされてますし、養護教諭とか担任とかが、子どもたちに自分の命を守ることであるということを踏まえて、一生懸命教えてあげて、子どもたちも納得したら、マスクを着用するようになると思います。

○教育長

本田職務代理者から文部科学大臣のコメントについて話がありましたが、緊急事態宣言で今回休業の要請があってそれに応じたわけですが、その時点のことを考えてみると、コロナウイルス感染症が、どういうものであるかということが、まだよく分かってないという状況もあって、皆さん非常に不安な思いを持たれて生活をされていたと思います。

そういうことから、例えば学校が分散登校等で子どもを集めようとすると、不安な思いから、どうしてそういうことをするのかというような、ご批判も受けました。その当初の状況の中で、やっぱり学校を継続していくということは非常に困難であるなと感じていたわけですが、だんだん、この感染症の性質が知らされてくると、こういう対策をすれば、授業を継続できると分かってきました。分散登校すればできるんだなという、そういう理解が進んできましたので、今後、例えば、さらに感染拡大した状況でも、何らかの対策を講じて、学校の学びを止めないということは、当初よりも受け入れていただけのではないかと考えています。

今おっしゃったように正しく恐れるというようなところで、しっかりと対策を講じてやっていくことで、こちらも説明責任を果たしながら、理解を得つつ進めていかなければならないと感じています。

○企画課長

今ひととおり、1点目の視点である「コロナ禍で見えてきたこと」につきまして、ご発言いただきました。

コロナ禍で見えてきたこととしまして、大きく分けますと、学校の役割、ＩＣＴの必要性、教員の多忙化、保護者負担、家庭の役割、教育格差、継続した感染症対策というような形でまとめられるかと思います。

学校の役割におきましては、ＩＣＴを推進ということになっていますが、それだけではできない友達等との繋がりの大切さや、また、こういう状況下においても、学びの保障を引き続き行っていかなければならない。また、これまで当たり前のようにやっていた、対面での授業・教育というものが問われているということと伴に、学校は、学びの保障というだけではなく重要な子どもの居場所であったということが改めて見えてきたというご意見をいただいております。

また、ＩＣＴの必要性につきましては、早くから取り組んでおられた私立と公立の活用の差があったということ、また、今回コロナ禍で教員がかなり多忙になられましたので、そのサポートの必要が生じてきたというご意見でした。

さらに、保護者負担・家庭の役割につきましては、様々な家庭の状況がありますので、そうした家庭による開きがあったり、保護者への説明等が必要であるということ、それに伴いまして、教育の格差というようなことも生じてくるんじゃないかとのご発言がありました。また、地域に合わせた取り組みを行わなければなりませんが、より早くスピード感をもって対応するということ。年度初めの時には、学校を一斉休業しましたが、その時はコロナがどのようなものかが分かりませんでしたが、継続した感染症対策を行いまして、今後も学校は重要な場ですので、継続が必要であるというご意見が主なものであったと思います。

それでは続きまして、今のご意見等も踏まえまして、2 点目の視点でございます「これから、求められる教育施策について」意見交換をお願いしたいと思いますので、ご意見のある方はどうぞよろしくお願いいたします。

〇小松委員

ＩＣＴに拘って話をさせていただきます。

確かにこれは１つのツールであって、これが全てではないですが、しかしこれからは必要なものだと思います。

国としては１人１台の方針があり、彦根市としても予算を出して体制は整えていかねばなりません。教育委員会の中でもプロジェクトが発足し、準備を進めているという中ではありますが、私自身として気になることが 2 点あります。

1 点目は、このハードそのものは、国の予算のおかげもあって整備を進めて行くことはできます。ところが、効率的な活用するための運用の部分で、ソフトウェアとか、或いは教員のレベルといったところがなかなか見えてきません。

日本は、ＩＣＴ化のレベルが決して高くないと思ってます。そういう意味からいえば、ＩＣＴのレベルをいつまでにどこまで上げるかということを、見えるような形にしないと駄目だと思います。やり方が、個々にバラバラにやってしまっていても問題があると思います。

これは彦根市以外でうまく取り組んでいるところがあれば参考にすれば良いと思いますし、その辺の情報をもっと集めた形で、今後のオンライン授業の実現について、これからのやり方をしっかり計画立てしなければならないと思います。

2点目は、教師のレベルをいかに上げるかいうことです。

専門家を育てなければなりません。定期的に様々な研修に参加するといったもの以外の予算で新たなことに取り込もうとしたときに、彦根市の教員や教育に対する研修費用はものすごく少なく、大体年に20万ぐらいです。毎年気にはしていますが、なかなか業務が忙しい、新たなテーマもはっきりしないという理由で、研修費用がいつも少ない状態ですが、彦根市として、ＩＣＴに対する内部での先生なり専門家を育てていく必要があるのではないでしょうか。市の場合、専門家といえばすぐに、外部からコンサルなどそういうものを引っ張ってこようとすることは分かりますが、それではＩＣＴの関係では、なかなか良い人材が集まらないと思います。だから、これは将来的な話ですが、独自で彦根市として人材育成する分野を考えてそこにお金を使っていかないといけないと思います。先生の頑張りでやっていくという感じがして、そういったところの計画が少し見えてきません。

長期的に見た時のＩＣＴの運用や費用をどうするかということと、人材育成をどうするかということ、この2点が必要な施策になるのではないでしょうか。

○西川委員

今いわれた通りですが、ＩＣＴを活用して１人１台端末支給ということがこれから大事になっていくと思います。身につけておいて、損はないという方向に進んでいくと思います。やはりそのためには、指導してもらう人の確保も必要になってくると思いますし、与えられた時、初めの指導が一番その時が興味深く入っていけて、身に入っていくと思うので、初めて使うときに、どれだけのものを得られるかが大切です。そういったことでどんどん伸びていければ１人１台の端末支給で活用できる学びの保障もついていくと思います。

家庭でもどこでも学習できることは良いことだと思いますが、いつもいってることですが、心と体の成長は、人が指導して人と触れ合ってということだと思います。先生、友達、保護者、大人、地域の人々の関わり方というのも、心を育てていくには大事だと思います。

デジタル化も必要なことだと思いますが、対面でする教育方法というのも必要になってくるのではないかと思います。人育てにも力を入れていって欲しいと思います。

○永濵委員

私もメインはＩＣＴですが、実際どういったタブレットを使って、どういう形態で授業を実施していくのかイメージがわかないっていうのが正直なところです。

もちろん、全てタブレットを使って実施されるとは思っていませんが、私は補助的に使うべきだと思います。教育委員会もそのつもりで動いてるとは思うのですが、やはり、先生が板書して、子どもたちが手で書く行動・動作は絶対無くしてはいけないと思います。私たち

も、最近携帯とかで漢字を検索したりしますが、こういった便利な装置を使っていますと、漢字を忘れてしまいます。知識として必要なものを収集するには良いことですが、タブレット上だけの勉強になりすぎないようにというところが心配するところです。タブレットをどこまで利用するとかという根本の部分を決めておかないと、先生もどこまで使って良いのかが分からず、使い過ぎはまた逆効果になると思いますので、その辺をしっかり詰めておかないといけないと思います。予算が通れば便利なソフトも導入できるいうこととお聞きしていますが、もちろんそれも補助的に最大限活用できるようにしてもらいたいです。

先生方もどんどん新しいものを導入しても使いこなすまでに時間がかかると思いますし、余計に先生を多忙化させてしまう可能性があり、多忙化を削減することに相反することをすることになってしまいますので、バランスを取りながら適度な速度で進めてもらいたいです。

ただ、どんどんＩＣＴも必要だとか色んなことが必要になってきて、先ほども見えてきたことを言わせていただきましたが、先生方もどんどん対応すべきことが増えていくので、何かをやめていけません。今まで当然と思ってしてこられた仕事なり子どもに対しての働きかけをやめろという事ではありませんが、ある程度スクラップアンドビルドをしていかないといけません。教師に求めることがこれからどんどん増えていくと思いますので、このままでは先生がパンクしてしまいます。基本方針を決めるのは国ですが、市でできるサポート、もしくは市でお願いしてきたお仕事をなるべく減らしてあげるという事が現場も喜ぶと思います。

「食」ということについて、今後ご家庭が不安定になっていかれるところも増えてくることが予想されます。教育委員会だけでできることではないので、福祉と連携していかねばなりませんが、そこにも重点をおいて対応していかねばならないと思います。

ＩＣＴは必要ですが、そのために教師に求めることが増えすぎないようにバランスを取った前進をお願いしたいと思います。

〇小松委員

ＩＣＴというのは、教材の勉強に替わる一部だと思います。

これだけデジタル化が進んだら、例えばそういうものを使って、地元の企業のものづくりの様子とか、彦根でいえばフジテックに工場見学に行ったりしますが、そのようなネットワークを使って日常とか地元のよさをＰＲするとか、そういうことはやりやすくなると思います。他にもユネスコとかにも取り組んでおられますが、海外との交流といった部分についても、世界がだんだん狭く近くなるという感覚は、得られやすくなるのではないかと思います。勉強としての使い方以外に、そういった使い方っていうことが進んでいくのではないかと思います。

〇本田職務代理者

皆さんおっしゃったようにＩＣＴは国としてもどんどん加速して取り組むといった状況ですが、確実に活用できるっていうレベルまでには、まだまだ道のりがあると思います。

先ほどいいましたが、対面とか直接的な体験は大事ということを踏まえて、ＩＣＴを活用することで、わかりやすい授業は構築できると思います。

例えば、今まででも大型画面を使ったりパソコンで映して、導入の部分をやったり振り替えをしたり、それから成果の部分で子どもたちの発表に使わせたりとか、初めは使えない人もどんどん使えるようになっていくと思います。

今回でも、本当の最初は技術員といいますか、学校の中でもちろん得意な人もいるでしょうが、始めに外部から教育に長けていて専門的にできる人材を多く導入して、皆さんに浸透するようにすればコロナの時だけでなくて、学校でもどんどん活用できるのではないかと思います。

家だけですと子どもたちってゲームだったら何時間でもするのに、オンラインとかだったら全然長続きしないということも聞きますので、やっぱりどのようにしたら一番効果的に使えるかっていうことも研究課題かと思いました。

本当の理想をいえば、ＩＣＴを使って子どもが自分から調べたり、色んなことに活用できるところまでできたら良いなと思います。

○市長

現状として、ハードの部分もソフトの部分も、ＩＣＴに関しては今年度で一応一通り手当をさせていただきます。加えて、外部の専門家にもお願いしてご指導いただくという状況ではあります。

あとは実際にやっていく上で、色々工夫をしていただければということではありますが、それはそれとして、私はやっぱり、ＩＣＴを活用していく必然性を認識しつつも、一番心配してることとして、今までの学校という集団での教育の場が感染拡大のセンターになってしまう可能性っていうのは残っています。これは、役所でもそうですが、人の集まるところっていうのは、感染リスクが高いということです。昨日も、合唱コンクールでクラスターが出たというお話がありましたが、いつでも起こり得ることだと思います。

では、そのリスクを教育の現場で回避ができる仕組みというものはどういうものなのかということを考えねばなりません。様々な考え方があるとは思いますが、我々は等しく生活様式を見直さないと、今までのようにはいきませんという実に大きな課題を突き付けられていると思っています。これは現在進行形ですので、対応をいつからしましょうということではなく、来年度といわずに、今年度で、今まさに対応しなければならないことであると思います。

修学旅行、今度の卒業式・入学式、入試もそうですし、これは実に難しい問題だと思っています。その辺のところを併せて、ご助言賜りたいと思っています。

○教育長

市長がおっしゃったように、学校でクラスターが発生するというような可能性はありますので、それを何としてでも防いでいくということが必要なわけですが、そのための対策について、いろいろ分かってきたこともあります。今、学級規模は県の施策で 35 人となっていますが、教室に 35 人が入ると一杯です。教員はなかなか増やせませんので、例えば教室を分けて、ＩＣＴを活用して、1 人の教師が分散している子どもたちに指導することも考えられます。そのような形で、密を防ぐことが可能となります。

また、例えば、家庭にいる子どもと学校に来ている子どもがいるような状況になったときも、ＩＣＴ環境を使いながらオンラインとリアルという組み合わせで授業ができないかというようなことも考えられます。ＩＣＴというのは、使い方によっては感染症対策にもなると考えています。

問題は、教員の指導力向上ですが、今、各学校にＩＣＴの推進リーダーを養成することを目標に進めているわけですが、各校 1 人だけでは、ＩＣＴの活用を図るということは難しいです。学校独特の文化で「同僚性」といいますが、教員が協力し合って色々指導技術などを学び合い教え合うといった文化がありますので、1 人の教員が試しにやってみたことを他の教員に広げていくことで、若手もベテランも、それぞれの良さを発揮しながら、ＩＣＴを活用する授業を行っていくことも考えられます。ＩＣＴが道具になるようにとにかく使ってもらうこと、活用率を上げていくことを目標に進めて行く必要があると考えています。

全国的にはすでに先進的にやられている学校もありますので、そういう学校の先進事例を活用し、ＩＣＴをどのように活用すれば成果があるかということも研究しながら、小松委員がおっしゃっておられた教員のレベルを上げることにも繋げていきたいと考えています。

○企画課長

今、ひととおり「これから求められる教育施策」につきまして、ご意見をいただきました。他にご意見あればお願いします。

○小松委員

ＩＣＴについての意見が多くなっていますが、教育施策ということになると、例えば不登校が増えているということもあります。

昨日も学校支援・人権・いじめ対策課の課長に話を聞きますと、コロナの発生と家庭や子どもの不安定さ、また不登校の件数と相関があるのではないかといわれていました。

そういったことからいいますと教育施策といいますか、家庭を支援するといった部分についても強化する方向が必要ではないかと思います。オアシスのようなものをもっと強化するべきなのか、不登校に対する施策というのは、コロナを機会に必要になってくるのではないかということを追加しておきたいと思います。

○市長
　オアシスや教育研究所は、オンラインの専門部隊みたいなものであり、どの程度効果があるかは分かりませんが、検討していただく必要はあるかと思います。

○西川委員
　先ほど市長も触れておられましたが、今年はことごとく行事がほぼ無くなっている中で、先日話を聞かせてもらいますと、運動会も各学校が工夫して楽しまれたとお聞きしました。
　色んな行事が無くなっていく中、来年度もどうなっていくかがわからない状態ですが、各学校で色んな工夫をして、子どもたちが楽しめる行事ができるようになると良いと思います。

○市長
　行政の行事もそうですが、色々工夫させてもらって何とか出来ているということですが、そもそもあまり感染者が出てないので、本当に工夫が生きてるかどうかもわからないところがあります。
　ですから、これからも色んなところで出ている感染事例をまだまだ積み上げて、対策を変化させていかないといけないだろうと思います。
　今も何人か出てますけども、学校で感染が拡大したとかそういう事例にはなってないので、本当にそれは幸いですが、それが、メインになって広がっていくというリスクはいつも感じています。今までと同じようにさせてもらえたらありがたいと思うところでございますが、なかなかそうはいかず対応しなければなりませんので、必要な支援があれば優先的に対応していかなければならないと思っています。

○企画課長
　今、2 点目の視点である「これから求められる教育施策」につきましてご意見をいただきました。
　皆さん共通して、意見を出していただきましたのは、1 人 1 台のハードウェアを整備するＩＣＴの活用については必要だという意見が共通している中で、ただそれを教えていただく、教師の方の能力を向上させるために研修ですとか、或いは、先進地から学んでそれを同僚の方へ伝えていただいたりするというような教員の方がそれをどう扱うかというご意見がございました。
　また、それに伴いまして、かなり教師の方のやることも増えてきますので、何らかの業務を減らしたりやめたりするようなことが必要ではという意見、また、全面ＩＣＴで教育をするのではなくて、心を育てたり、対面学習の良さという部分をどうしてしていくべきか、また、安全・安心な学校づくりを行うために、集団生活というのは関心のリスクを抱えてますので、今後もＩＣＴ等を活用しながら、三密を防ぐなり感染防止対策を継続していくという

ようなご意見が出ていました。
　また、ＩＣＴからは離れますが、不登校やいじめなど、特にコロナによってそういった事例が顕著になってるというご意見もございましたが、福祉的な教育を今後も推進していく必要があるというようなご意見をいただいたところでございます。
　それでは１時間ほど経ちましたので、換気のため休憩を挟みたいと思います。

【休憩】

○企画課長
　それでは再開させていただきます。
　最後の項目となりますが、１点目と２点目のご意見を踏まえまして、３点目の視点である「実現のための予算編成の要点」につきまして意見交換をお願いします。

○本田職務代理者
　先ほど話の中に、不登校やいじめが出ていました。
　ＩＣＴを活用して、登校している子と不登校の子が学校にいるようなやり取りができるようなことは是非とも実現してもらいたいと思います。それからいじめや不登校ですが、どこまで表に出ているか分かりませんが、子どもたちの中には、自分がそういった状況になったら人に知られたくないとか、家族も子どもがそうなっても内緒にしておくとか、自分がそうなってしまうことに対する不安が大きいように思います。そういう気持ちが学校ではいじめや不登校に結びつく根っこになると思いますので、コロナ対策の一つになると思いますが、きっちりとフォローをしていかなければならないと思います。どのように感染するのかなどをしっかりと説明した上で、症状についてやお年寄りに移さないようにするなど、そういったことを教える時間も設けてもらいたいと思います。
　エイズの時も学校でエイズ教育をするように指示がありましたが、エイズになりたくてなったわけではなく、色んな原因がありますので、正しく対応をするようにとの話がありました。コロナにしても同じだと思いますので、いじめなどに結びつかないように対応をお願いしたいと思います。
　西中の方が、医療の方に労いのメッセージを送られていました。医療従事者は、応援になって、気持ちが前向きになったとおっしゃっておられたので、そういったところまで気持ちを馳せるような子どもたちになってくれればと思います。

○小松委員
　ＩＣＴの関連で２点申し上げます。
　今年度、ハードとソフトの基本的なものを準備いただいたのでスタートできます。
　ただ先ほどもいいましたように、これから色々とやっていくうちに、人材の応援などまだ

まだ不足している部分が出てくると思います。

令和 3 年度の中でも特別枠でモバイルＷｉＦｉの通信費があり、そういう状況が整っていない家庭環境でも、ハードを持っていれば繋げれるような予算が要求されています。ＩＣＴの環境整備のためには、このような部分の整備も必要かと思います。教育の公平性という部分も含めて考えていただきたいのが１点目です。

それから２点目ですが、先ほど教育長からＩＣＴを高めるために先生の「同僚性」という話がありました。やはり尖った人を作って、それで広めていくことが必要だと思います。人材育成にお金を使ってほしいと思います。

例えばＩＣＴであれば、民間のベネッセでＩＣＴを上手く進めるための講座や研修を色々やってると聞きます。全員受ける必要はないので、そういった尖った人材を何人か送り込むことが必要です。そういったことはお金が必要ですが、そのような投資をすべきです。

市全体のことかも知れませんが、私は、人材に対する投資が非常に少ないと感じています。今までの学校というのは、先輩の先生方のやり方を学びながらそれでやっていくようなところがあって、別に新たに学ばなくても学校の中で成長できるということがあったかも知れませんが、これから新しい領域をやろうとしたら、絶対外部に出ていって色んなことを求めていかないと人が育たないので、そのための費用というのは現状は少な過ぎると感じています。専門家を入れるということについて、それはそれで良いですが、長い目で見た時はやっぱり自前で人を育てていくということを考えていく必要があると思います。

○永濵委員

教育委員会の予算ということでいえば、まずはＩＣＴを中心にやっていくことが今最優先課題でお願いするということです。

市長も、ハード・ソフトを一通り、今年頑張って予算を付けていただいたと思いますが、一度先生方に教えたといっても、新しい先生がどんどん入ってきますし、ＩＣＴが活用されていない他の地域から転勤で来られる先生もおられます。

ある程度、長年彦根市におられれば、身についていかれると思いますが、これからしばらくは毎年ＩＣＴをサポートできるような予算をお願いすることになると思います。

今回一区切りである程度まとまった予算を付けていただいたとしても、これからもご協力をお願いしたいものがあると思いますので、現場の意見も聞いていただいて、よろしくお願いします。

○本田職務代理者

ＩＣＴ以外のことですが、学校というのは、究極的に子どもたちにしっかりと広い意味での学力を身に着けて、世の中に出してやることだと思います。今は教師の世代交代も加速していて、若い先生もどんどん増えている中、コロナが発生して、なかなかお互いに研修、研鑽を積んでということもしにくい状況にあることは確かです。

そのためにも、例えば、国語とか算数と数学とか、そういうことに専門的で長けた人を活用するとか、もっと臨時の人を増やすとかそういうことにもお金を使っていただけると嬉しく思います。何だかんだいっても、最後は子どもの力のためにと思いますので、よろしくお願いします。

それから先ほど不登校のことをいいましたが、去年の事業で市内の２校が、教員のＯＢやＯＧを活用して、登校しづらい子や家庭、親に対するサポートや支援してあげるような制度が推進されて、1 年間続けてきました。その成果を聞きますと、一朝一夕ではないですが、良い方向に進んでいると聞いています。

子どもたちがこれだけ多様な状況を見せている中で、ソーシャルワーカーなどの個別への対応とか専門的な対応も必要だとは思いますが、色んな部分でそういう事業をもっと強化していく必要があると思いますのでお願いしたいと思います。

働き方改革にも関わると思いますが、全てを教師が対応できれば素晴らしいと思いますが、体は１つですから難しいです。サポートスタッフがいるだけで、子どもと向き合う時間が全く違ってくるということもあると思いますので、先生方に優先的に頑張ってもらうためにも、消毒作業とか清掃作業とか、直接、先生が関わらなくても良いところは今年と同様に是非とも来年も予算に入れて欲しいと思います。

〇西川委員

コロナ関連の対策予算が続いていくと思いますが、学校とか、子どもたちが過ごす場所については、気持ちよく過ごせる環境整備とかにも予算を充てて欲しいと思います。

〇教育長

コロナで見えてきたこととしては、学校ではどうしても集団での学びとなりますので、感染症には弱いというところがあります。そういうことを改善するために、例えば、今まで 30 人で一斉に行っていたものを、分散したり、2 回に分けて実施したりするような活動を仕組むようになっています。

そうすると、それに対応するための人が必要になりますので、やっぱり学校現場には、「人」が必要になると思っているわけですが、何か学校での行事をやるにしても、今まで１回で済んでいたものを複数回に分けて実施しなければならず、そのためのスタッフも、今までよりも 1.5 倍とか 2 倍とかで入ってもらわないと、安全が確保できないというような状況が生まれています。

具体的には、児童生徒の健康診断で、スタッフの方にいろいろと役割分担をしていただきながら、感染症対策を行うという時には、今まで３人で済んでいたものが、ここにも人が必要になるというようなことで、とにかく人材の確保というところが必要になっています。

業者に委託している事業についても、そういう対策を施すために、今までよりも、余計に経費がかかり、どうしても実施をしなければならない健診等も高額となって、非常に困り感

があるといいますか、どのようにして担保していくか、予算で今非常に苦労している状況です。

来年度もコロナと付き合っていかないといけないという中で、「人」にかかる経費というものが増えているというところが課題になっております。

〇市長

こういう状況ですので色々とご苦労いただかないといけないとは思いますが、色々と工夫対応しなければならないということから、「人」を動員をしていかないといけないとは私も思います。ただ、人を集めるというのは感染リスクを高めるということになります。

人を集めずにやらなければならないということを考えるときに、ＩＣＴは１つのツールになります。今まさに健康診断のことをおっしゃいましたが、彦根市も集団健診をやめました。市が主催するものについては、これは県に委託してやってきたのですが、1ヶ所に何十人も集めて健診することは非常にリスクがあるということで、これは県でも色々と議論となっていますが、我々としてはその責任を持てないということで、判断をしたことがありました。

今までやってきたことを、そのまましようとすると無理があるっていうことはこれからもいくつか出てくると思います。もちろんそうしたものを、「人」を動員することで解決できるものと、解決できるけどもリスクが伴うということも含めて考えると、色々とやり方があるのではないかという気がしなくもありません。

ですから、永濵先生が最初におっしゃった、色々と工夫してやらなければならないことがあると同時に、おさめるということも同時に考えければなりません。しばらく休むという方法もあると思いますし、コロナの感染が拡大が収束したならば、皆さんの受け止めとして、インフルエンザに類する克服できる感染症だという意識になれば、復活できる事かも知れません。

その予算が厳しいということで申し上げてるわけではないのですが、あまり「人」を頼りにするということは「人」が確保できなかった時にどうするのかっていうことがどうしても出てきます。

今までからも、予算を準備しても、それをうまく補っていただく「人」がいなかったということが今までも他の事業でも随分ありましたので、それが、決して万全の解決策ではないと思います

いずれにしましても、限られた財源ではありますが、そこはよく皆様方のご意見を伺いした上で、これから対応させていただけるものについては、できる限りのことをさせてもらいたいと思っておりますが、一方でそういうことも、併せて考えなければならないと思っています。

当初予算で、対応できるものそうでないもの、途中でやるもの、今年度でやってしまうものとか、色々とこれから都合が出てくると思いますが、皆様のご意見を踏まえて、しっかり

知恵と汗をかいて対応させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○企画課長

ただいま皆様方の意見をもとに市長からその意見を踏まえまして令和 3 年度予算編成取り組んで行くという話でございました。

本日予定しておりました議題は、これで終了いたしました。

今年度の総合教育会議につきましては、2 回を予定しておりましたので、本日この第 2 回総合教育会議をもって本年度最後の総合教育会議が終了となります。

つきましては、市長から最後に一言ご挨拶をお願いしたいと思いますので、市長よろしくお願いいたしますか。

○市長

今日は本当にありがとうございました。

今年度、本当にこんな年になるとは、年初に思わなかったわけですが、感染防止対策を取りながら、制約の中で早くも師走を迎えようとしています。

彦根の将来、また、日本の将来を担う子どもたちが、健やかに力強く育っていけるように、全力を尽くしていかなければならないという思いは共通しております。

色々と予測しがたい状況もありますが、ぜひ、今日頂戴しましたご意見を参考にさせていただいて、また、教育委員会とも協議を重ねて、来年度予算の編成に向け、しっかりと作業を進めて参りたいと思います。そして、来年も今年と同様に、コロナに負けず、しっかり頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きよろしくお願いを申し上げます。

ありがとうございました。

○企画課長

皆さんどうもありがとうございました。

令和 3 年度におきましても、彦根市総合教育会議は開催させていただきます。

開催の日程等につきましては、年度変わりましたら、調整してご連絡さしていただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それではこれをもちまして、令和 2 年度第 2 回彦根市総合教育会議を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。